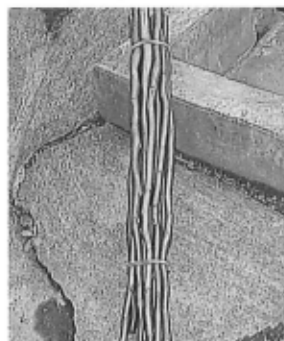


ボランティア活動30年



ペットボトルを
利用した花瓶



アカザの杖



竹ぼうき



石油などの空き缶を利用
したちりとり

都留市夏狩にお住まいの小林与一さんは、明治四十五年生まれの八十八歳で、今年めでたく米寿を迎えました。小林さんはボランティア活動をはじめ、三十年の間、老人クラブや保育園、小中学校などに手作りの作品を寄付してきました。

小林さんのおもな作品は、竹を利用した竹ぼうき・竹の根を利用した花さし・石油などの空き缶を利用したちりとり・ペットボトルに竹編みした花瓶・アカザの茎を利用した杖などで、それぞれの作品が小林さんの人柄をありのまま表現するかのよう、心温まる見事な出来映えです。また、使用されている材料については、自然のものを利用したり、廃材を利用するなど地球環境に配慮したりリサイクルを基本として製作しています。

三十年の間続けてこられたのも、女房の支えがあればこそ、それと自分の手先が起用で趣味を生かし、楽しみながら焦らずひとつずつ丁寧に物づくりをしてきたこと。なにより自分が製作したものを喜んでもらえる、子供から送られてくる礼状を読んでいる時が嬉しくて、そんな瞬間に幸せや充実感を感じ、次の作品への製作意欲が湧いてくる。そういった小さな喜びが長くつづけられた秘訣ではないかな？それと、まだまだ体も健康だし、今が青春だよ！これからも皆さんに喜ばれるものを作り続けたいと、はにかみながら思いを熱く語ってくれました。

これからは、小林さんの技術をより多くの皆さんに継承していただき、ますますのご活躍を期待しています。ご協力ありがとうございました。

ボランティア活動は身近な所でひとりでも活動はできます。しかしそれぞれの活動の底辺が広がり、より多く、広くネットワークづくりへと進むことを願っています。皆さんもボランティア活動について今一度、考えてみてください。